



平成8年に開業した東葉高速鉄道（以下、東葉高速）。東葉勝田台駅から西船橋駅までの9駅、16.2キロメートルの路線で、西船橋駅からは東京メトロ東西線との相互乗り入れ運転をしています。東葉勝田台駅から東西線日本橋駅まで43分と、都心までのアクセスの良さから1日平均13万5,000人が利用しています。

今回は東葉高速の車両基地や券売機の裏側などを取材しました。



車両基地内見学レポート

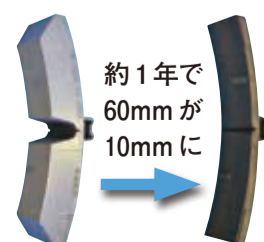
東葉高速に110両ある車両のほとんどは、1日の営業を終えると、緑が丘にある車両基地に戻ります。基地内では、電車が安全に走れるよう、24時間365日体制で車両の点検や整備を行っています。毎年秋に行われる東葉家族車両基地まつりでしか入ることのできない車両基地を、特別に見学させていただきました。

まずは 車両検修庫へ



車両10両分（200メートル）がすっぽり入るほど細長い建物です。ここでは、パンタグラフや制輪子（ブレーキ装置）の点検・整備などを行います。

制輪子…電車を止めるために使用するブレーキパッド。空気圧を利用して制輪子を車輪に押し当ててブレーキをかけます。摩擦ですり減っていくため、約1年で交換します。



安心と安全を乗せて

市民の足として活躍する 東葉高速鉄道

自動券売機の裏側はどうなっているの？

私たちが普段切符や定期券を買っている自動券売機。この裏側はどうなっているのか調査しました。



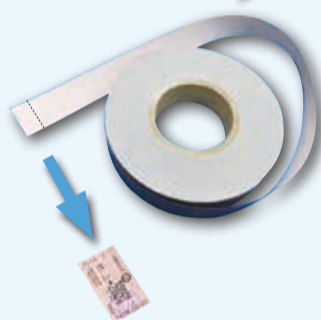
裏側は



切符ってロール状で
セットされてるんですね

見慣れた券売機の裏側は小部屋になっています。機械は裏側にもタッチパネルがついていて、投入された金額やカードの残高、切符の種類などが分かるようになっています。

切符になる用紙はトイレットペーパーのように巻いた状態でセットしてあります。この用紙はひと巻で250メートルあり、約8,300枚分の切符になります。ロールは、だいたい1週間くらいで交換するそうです。



券売機の裏側がどうなっているのか今まで考えたこともなかったのですが、購入者の声が聞こえるくらい薄い壁1枚ということには、びっくりしました。駅員は接客や清掃などさまざまな仕事をしており、泊まりの勤務もあります。私たちの通勤・通学に影響が出ないように、日夜守ってくれているのだと感じました。



ひし形よりも風の影響が少ないんですって

パンタグラフ…動力である電気を取り込みます。以前は、ひし形が主流でしたが東葉高速ではシングルアーム型を使っています。



続いて 車両洗車機へ

左右に独立して設置された合計8本のブラシの間に車体を通すことで側面をきれいに磨き上げます。

車の洗車機に似ていますが、架線との接触を防ぐため、上部にはブラシがなく、届かない部分や前面は人の手できれいに磨かれます。



だいたい10日に1回のペースで洗っています

そしてついに 運転室へ



出発進行



ちょっと一息

東葉高速に踏切を発見！！



東葉高速は、ほとんどが高架橋とトンネルになっているため、路線内に踏切はありません。

しかし、たった1か所、車両基地の中にあるんです。毎日何往復も電車が出入りするため、社員が安全に渡れるよう設置されています。